我が町あれこれ情報★

◇昭島市の町名について

昭島市が誕生したころ（昭和29年）の町名は、江戸時代からほぼ現在と同じ村名で多摩川沿いに存在しておりました。それぞれの村の中心部は、多摩川の水利上、河原近くの奥多摩街道近くにあり、上流から拝島、田中、上川原（上河原とも）、大神、宮沢、中神、築地、福島、郷地と並んでいました。現在の町名は、区画整理などにより青梅線・江戸街道に沿って東から東町、玉川町、朝日町、昭和町、松原町、緑町などが増え、昭和飛行機の跡地に、つつじが丘、更に北側の砂川との境に、武蔵野、美堀町が誕生しました。

市内の地図を見るとよく分かりますが、元からあった町名の拝島、田中、上川原、大神、宮沢、中神、築地、福島など、すべての町名が青梅線の北側にも見られます。少し前まで郷地も昭和記念公園内のみんなの原っぱや、プールなどのある場所の地名でしたが、新しく設定された町名「もくせいの杜」に、築地、福島の大部分のエリアとともに変更されてしまいました。青梅線の北側のこれらの町名の大部分は、区画整理に伴う町名変更までは、多摩川沿いから砂川との境まで、すべてが細長い地形で繋がっていました。

では、どうしてそれぞれの町域が、どこも同じように南北に、これほど細長い区域になってしまったのでしょうか。おそらく皆さんが学校で習った「日本の歴史」の中でその話が語られていたと思います。

時は江戸時代の中頃、八代将軍・徳川吉宗（1711年・享保の改革の新田開発奨励）の命により、各地で新田開発が行なわれ、人々は食料の増産に励みました。近郷では砂川などでも新田開発が行なわれましたが、特に昭島のお百姓さんは新田開発に熱心で、どんどん北へ畑を増やして行きました。なぜ北へ北へと開墾したかというと、奥多摩街道沿いに点在していた各村は、北側へ進む以外に手つかずの原野がなかったからです。

中でも宮沢村は頑張って現在の砂川の奥深くまで開墾してしまいました。ところがその後、明治初期の行政区域の策定により、昭島市と砂川の境界が現在の西武拝島線あたりまで南下して設定されたため、砂川に深く入り込んだ宮沢の農地は、砂川村に編入されることになりました。しかし、宮沢のお百姓さんが頑張った証として、現在も地名などに宮沢が残っています（宮沢公園、バス停「宮沢新田」、交差点名「西砂町宮沢」）。

町名一つをとっても、これだけ色々な歴史に絡んでいる昭島です。これからも大切にして住み続けたいですね。

（東町・福田　晃）

～地域住民交流の場～ 郷地・東町のサロン活動情報！

◆東町集会所の「東町サロン」
●毎月第１月曜日の午前10時～12時に開催。
参加費は100円。
◇問合せ：TEL042－541－4848　藤森さんまで

◆昭島団地自治会館で開催しているサロン
「いしまとう」…囲碁・将棋・麻雀を楽しむサロン。
●毎月第1日曜日の10時～16時に開催。
参加費は300円。飲物、おやき、お菓子付。

「あおぞら寄席」
●２月19日に、地元出身で現在二つ目の桂笹丸さんと、同門で後輩の桂れん児さんに来て頂き、「桃太郎」「やかん」「紙入れ」「牛ほめ」「星野屋」を語って頂きました。今回、笹丸さんから、ようやく後援会が発足したとのお知らせがありました。

桂れん児さん

桂笹丸さん

次回のあおぞら寄席は、5月21日（日）を予定しています。参加費は、大人600円、高校生以下200円ですが、プロの方の落語をこの参加費で聞けるのも、ここだけです。コロナ対策もしっかりとっていますので、安心してご参加頂き、大いに笑ってください。

「麻雀同好会」
●毎月第2・4月曜日の13時～17時に開催。
参加費は200円。いつも平均4卓16人程が参加。
◇問合せ：TEL080－5185－0444　清水まで
※昭島団地自治会館はサロン用の駐車場あり。
※いずれも開催が不明な時は担当までご確認を。